



会計分野における指導と評価の一体化

宮崎県立都城商業高等学校指導教諭 甲斐 久美子

1 はじめに

今学習指導要領において、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理され、総則において指導と評価の一体化の必要性が明確化された。また、高等学校における観点別学習状況の評価を更に充実し、その質を高める観点から、指導要録の参考様式等を改善し、各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄が設置され、観点ごとにABCの3段階で評価をすることが必要となった。

そのようななか、宮崎県高等学校教育研究会商業部会において設置されている学習指導研究会（4分野）で「新学習指導要領及び観点別学習状況の評価における『指導と評価の一体化』」という統一研究テーマを設けて研究を行うことが令和4年度に決定した。生徒の学習状況を的確に捉える、教師が指導の改善を図る、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする、といった学習評価の在り方について、会計研究会の委員長として2年間、研究を進めることとなった。



2 学習指導研究会「会計研究会」における取り組み

1年目の研究活動・スケジュールの調整をするにあたって、会計研究会では、委員長・副委員長が研究授業を行い、年2回の研究会を実施すること、授業についてはいずれも1年生を対象とした簿記について「主体的に学習に取り組む態度」を見取る授業を展開するという大枠を決定した。いずれも研究授業を参観してもらい、研究協議では、実際に生徒が記述した授業プリントを使用し、「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができるのかを検証した。

今回の授業が他校でも活用できるものとするを旨として研究会を運営したが、授業の感想と各校の評価に関する事例を共有するのみに終わってしまい、指導計画と評価計画について議論することができなかった。議論が広がらなかった理由としては「主体的に学習に取り組む態度の評価をどうするか」を考えながら授業計画を立ててしまい、十分な評価計画を立てていなかったことにあった。

2年目の研究活動・スケジュールの調整をするにあたって、委員長・副委員長が研究授業を行い、年2回の研究会を実施することという点については前年度より変更はなく、授業はいずれも2年生を対象とした財務会計Iについて研究をすることとした。

第1回目の研究会は、前年度と同じように研究授業を参観してもらい、「主体的に学習に取り組む態度」をどのように見取るかについて検証した。参加した先生方からは、「普段疑問に感じていることを遠慮なく質問できる雰囲気に参加して良

かった。このような研究会があることはとても大事である」という意見をいただき、研究会で悩みや不安を共有することも、学習改善や指導改善への第一歩であると感じた。

第2回目の研究会では、昨年度の反省を生かし、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2021）『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 専門教科商業』第1章「〔指導項目〕ごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成に沿って進めることとした。「指導と評価の計画」を作成したうえで、「形成的評価（常に行っている指導改善のための評価）」と「総括評価（評定のための評価）」に分けて授業を展開し、「指導と評価の一体化」をすすめるためにはどのような取り組みが必要なのか、授業を通して考える機会をもつこととした。また、「総括評価（評定のための評価）」では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点を1時間で見取ることができのかを検証した。



研究協議の時間が1時間しか確保できず、十分な振り返りと情報共有ができたとは言いが、後日実施したアンケートの回答に「形成的評価と総括的評価を分けてどの授業で評価するか、綿密な授業計画が必要だと感じた」「考えさせる時間の確保と考えさせるための知識の定着、そして考えたことをどのようにアウトプットさせるかという点を考える機会となった」「早速、今日の授業

で活用しました」という意見があり、研究会への参加がきっかけとなり、授業改善の必要性を感じ、「指導と評価の一体化」にむけた具体的な動きにつながった点から、一定の成果はあったと感じる。

3 都城商業高等学校 会計分野における評価の実践事例

(1) 観点別学習状況の評価の進め方

「知識・技術」「思考・判断・表現」については単元テストによる評価を行っている。単元テストの作問（問い）を工夫すれば、この2観点については単元テストで見取ることが可能ではないかと感じている。テストを年間で10回ほど実施しているが、データを蓄積し共有すれば、作問の負担は軽減される。また、採点システムを活用すれば、Google Classroomでの答案返却が可能となり、単元のまとめりに学習の振り返りができるといった利点がある。

以下、簿記の仕訳帳と総勘定元帳について、「思考・判断・表現」を見取る出題例を示す。

3. 思考・判断・表現

Aさんは(5/26の取引)を仕訳帳と総勘定元帳に記入し、日ごとに確認してもらったこと、その際のAさんと日さんの会話文の「ア」「カ」「ク」に入る適切な語句・金額・数字を答えなさい。

(5/26の取引)

銀行から¥400,000を借り入れ、利息¥28,000を支払って、残額を現金で振り取った。

仕 訳 帳						1
令和○年	期	業 日	借 方	借 方	貸 方	
5/26	現 金	5		372,000		
	支払利息	8		28,000		
			借 入 金		1	400,000

総 勘 定 元 帳

現 金						1
令和○年	期	業 日	借 方	借 方	貸 方	
5/26	借 入 金	1		400,000		
			借 入 金		5	
			5/26	現 金	1	400,000
				支 払 利 息	8	
5/26	借 入 金	2		28,000		

Aさん：5/26の取引を仕訳帳に記入して、毎勘定元帳に転記しました。間違いないか確認してもらえますか？

日さん：はい。まず仕訳帳の記入から確認してみますね。仕訳の勘定科目と金額に間違いはないですが、元丁欄が間違っていますね。元帳欄には転記したあとに「ア」の番号を記入することになっているので、現金が「イ」、借入金で「ク」と記入するのが正しいですね。

Aさん：すぐに訂正します。総勘定元帳の記入はどうですか？

日さん：現金勘定、借入金勘定、支払利息勘定、それぞれ1方ずつ間違っていますね。

Aさん：すみません。今後のために、どこが間違っていたのか自分で考えてもいいですか？

日さん：もちろんです。間違った箇所に基づいたら教えてください。

Aさん：はい。まず現金勘定を見てください。

あ、「エ」のところが間違っていました。正しくは「オ」ですね。

日さん：その通りです。では借入金勘定はどうですか？

Aさん：「カ」のところが間違っています。正しくは「キ」ですね。

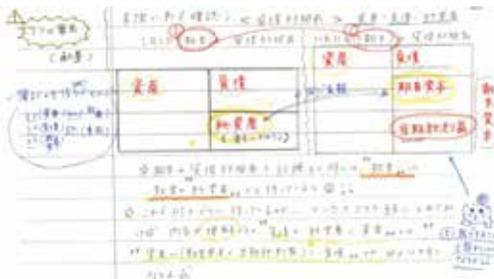
日さん：もうですね。では支払利息勘定はどうですか？

Aさん：「ク」のところが間違っています。正しくは「ケ」ですね。

もし訳ありませんでした。今後、こういったミスがなくなりたいと思います。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、レポート・課題等で評価している。レポートについては、単元テスト実施後、自ら課題を設定し、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」を見取る。

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	自分の課題に沿ってレポートを作成している。貸借対照表と損益計算書の役割と構造について理解を深めようとしている	自分の課題に沿ってレポートを作成している。貸借対照表と損益計算書の役割と構造について理解を深めようとしており、図や色を付けるなどの工夫がみられ、ポイントをわかりやすくまとめている	レポートは提出されたが、単元テストや問題集をそのまま書き写しただけで理解を深めようとしていない



(レポート A評価の例)

課題については、夏季休業中の課題を Google Classroom で 2 回に分けて配信し、期日までに回答させる。この課題の特徴は、普段は部活動等で学習時間の確保が難しい生徒でも取り組める、携帯端末があれば自宅以外でも取り組めるという点にある。回答期限内であれば何度でも同じ問題に挑戦できることから、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」を見取る。

以下、財務会計 I について、夏季休業中の課題と評価について例を示す。

2年商業マネジメント科 (地域共創) 財務会計 課題について (連絡)

夏休みの課題は Classroom にて 2 回配信するので、期日までに必ず送信すること
 第 1 回: 8 月 2 日 (水) 配信、8 月 16 日 (水) までに回答送信
 第 2 回: 8 月 16 日 (水) 配信、8 月 30 日 (水) までに回答送信

問題が何問か配信されるので、必ず全ての回答を送信する。
 満点を取るまで何回送信しても構わない。
 回答した中での最高点を評価に入れる。
 得点は第 2 回の「主体的に学習に取り組む態度」20 点分の評価に入れる。

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	3つの問題全てに解答している。二部の問題において、正解を導き出すまで送信し、学習の調整を図っている。	3つの問題全てに解答している。解答したすべての問題において、正解を導き出すまで送信し、学習の調整を図っている。	3つの問題全てに解答しているが、正解を導き出すまで送信しておらず、学習を調整しようとしていない。

1. かねて建築を依頼していた建物が完成し、引き渡しを受けたので、*のクレジット建築代金 ¥98,000,000のうち、すでに支払ってある金額を差し引いて、残額 ¥15,000,000は小切手を振り出して支払った。

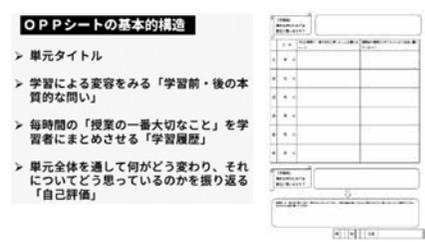
	借方	貸方	使用しない
現金	○	○	○
当座預金	○	○	○
前払金	○	○	○
建物	○	○	○
建設仮勘定	○	○	○

1. 下記の取引の固定資産売却損を答えなさい。*のクレジット
 第10期初頭に商品を ¥2,200,000 で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた商品を ¥800,000 で引き取らせ、新しい商品の代金との差額は翌月末に支払うことにした。ただし、この古い商品は第10期初頭に ¥2,000,000 で買い入れたもので、定率法により毎期の減価率は 20% として減価償却費を計算し、期首時点で記録してきた。

回答を入力

(2) 生徒の学習改善や教師の指導改善につながるOPPシート

生徒の学習状況の把握、授業や指導計画の改善につながるものとして、今年度よりOPPシートを活用している。これは、学習や授業において使用する一枚の用紙であり、日常の学習や授業の改善を行うことを主たるねらいとしている。学習者の本音を可能な限り知り、その真の実態を改善するため、成績評価には使用しない。授業終了5分前に授業の振り返りを行い、授業で大切だと思ったことをシートに記述させることによって、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかを見取ることができるのではないかと感じている。



一番大切だと思ったこと		疑問点や感想など
①	4月17日	<p>筆記は対策・備忘とでも も木曜日だと覚えた。</p> <p>筆記のつとに まよっかたを覚えた。</p>
最初の授業で「筆記」に興味・関心を持った様子が窺える		
一番大切だと思ったこと		疑問点や感想など
②	4月25日	<p>筆記は覚えるまで「レイトが 今日まで覚えるほどで、 覚えた。おもしろい。た ま</p>
「わかる」ことが「楽しい」につながる実感		
一番大切だと思ったこと		疑問点や感想など
③	4月25日	<p>物忘れ防止のため 期前の復習対策は、期前 復習が大事!</p> <p>復習が重要で原因が 気になる!!</p>
次の単元へつながる疑問を持っている		

(1年生簿記 生徒の記述プリントより)

4 都城商業高等学校における評価フレーム

都城商業高校では、平成30年度・令和元年度に教育課程研究指定校事業に取り組み、指導と評価の一体化に向けた研究を2年間行った際、観点別評価・評点・評定の3つを紐付けて評価をする「都商の評価フレーム」が完成している。

評価資料 評価割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習活動	教科・科目によって変わる	
	単元テスト 50%	単元テスト 30%	課題レポート、振り返り 20%	評定基準	評定
A 80%以上	49点~59点	24点~30点	16点~20点	80%以上	5
B 65%以上 55%以上	25点~39点	15点~23点	10点~15点	60%未満 65%以上	4
C 50%未満	0点~24点	0点~14点	0点~9点	40%未満 40%以上	3
				30%以上	2
				30%未満	1

単元のまとめりに観点別学習状況の評価を行い、年3回実施の定期考査に合わせて評点を算出し、成績一覧を生徒へ提示している。観点別評価を総合して、最終的には1~5までの5段階で評定を確定している。

単元	単元テスト					課題レポート	振り返り	総合評定
	1	2	3	4	5			
1	12	12	9	7	18	14	9	8
2	18	14	9	8	19	12	9	8
3	12	12	9	7	18	14	9	8
4	12	12	9	7	18	14	9	8

単元	総合評定	評定
1	4.3	B
2	4.2	B
3	4.3	B
4	4.3	B

単元	達成率			総合評定	評定
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習活動		
1	67	42	75	4.3	B
2	64	58	75	4.2	B
3	70	100	100	4.3	B
4	77	60	75	4.3	B

単元	達成率	総合評定	評定
1	67 × 50% = 33.5	4.3 × 30% = 12.9	75 × 20% = 15
2	64 × 50% = 32	4.2 × 30% = 12.6	75 × 20% = 15
3	70 × 50% = 35	4.3 × 30% = 12.9	100 × 20% = 20
4	77 × 50% = 38.5	4.3 × 30% = 12.9	75 × 20% = 15

5 おわりに

「評価から授業をつくる」ことの大切さを実感したのは研究を始めて2年目のことであった。それまでは授業を進めながら「どの場面で評価しようか」と考えており、指導計画と評価計画を一体として設計していくことができていないというのが実状であった。生徒の学習改善と教師の指導改善につなげるためには、指導計画と評価計画を一体として設計していくことが必要であり、目の前の生徒の実態に合わせた単元づくりや授業づくりが必要となる。今回は、試行錯誤しながら実施している「指導と評価の一体化」の実践事例を紹介したが、うまくいかないことも多く、その都度修正を繰り返している。まずはやってみる、そして改善する。それを繰り返すことが授業や指導の改善につながり、生徒の学習改善にもつながると強く感じている。学習評価の改善の基本的な方向性である①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと、に加えて④学校全体として組織的かつ計画的に取り組むこと、を忘れず今後も改善に努めていきたい。

参考文献

- ・田村学(2022)『学習指導要領がめざす「子を育む!」「ゴール→導入→展開」で考える「単元づくり・授業づくり」』小学館
- ・澤井陽介(2022)『できる評価・続けられる評価』東洋館出版社
- ・堀哲夫、中島雅子(2022)『一枚ポートフォリオ評価論OPPAでつくる授業』東洋館出版社
- ・文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(2021)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 専門教科商業』
- ・文部科学省(2018)『学習指導要領解説商業編』